

内外出版社ブースでガラポン大回転! カブもある!!

# YOUNG MACHINE

ヤングマシン



Super Cub 50 STREET

ガラポン  
内外出版社  
ブース

**Scoop**  
YM × YOSHIMURA MONKEY125

ヨシムラブース

モニター抽選会は  
3/24 12時半に実施!

2019

東京モーター  
サイクルショー

号外

FREE



内外出版社ブース ヨシムラブース

誌面掲載のマシンを東京でリアル展示

## YM 特選カスタム解説

新刊も続々発売!

ヤングマシン5月号

ニッポン神名車伝



世界一  
ディープな  
NSR専門誌  
**PROSPEC**  
VOL. 2



#ヤングマシン  
SNS写真投稿者に

**YOUNG**  
ヤングマシン MACHINE  
<https://young-machine.com>

ステッカー  
プレゼント!

**YOUNG**  
ヤングマシン MACHINE  
<https://young-machine.com>

内外出版社  
ブース

新発売!  
内外出版社  
ブース

新発売!  
内外出版社  
ブース

2019  
4月発売  
予定!



車両製作：ナインゲート  
☎042-455-6985



**YZF-R25**  
9-GATE



↑購入はこちらへ。



↑解説はこちらへ。

**カウルはR25/R3にボルトオン装着可能**



←輸入販売が開始されたカウルキットは19万4400円。  
↓デカールキットは2万7000円〜で3バリエーション用意されている。



↑ヘッドライトは直径が7インチもしくは180mmサイズに対応。ハンドルは低くする必要があるが、'19モデルならそのままでいけるかも!?



↑テールランプは純正。フェンダーレスキットはボッシュフェイス製をチョイスした。マフラーは4本出しではなく、アクラポヴィッチ製スリップオンだ。



↑ヘッドライトはハーレー用のカスタムパーツを使用。バーエンドミラーはデイトナ製だ。「本当は当時と同じグッドイヤーのタイヤにしたかった」とオーナー。

# 誌面

**完成度の高いカウルから着想を得た大人の1台**

このYZF-R25カスタムは、米国のGG RETROFITZが販売しているYZF-R25/R3用のレトロスタイルリングボディキット「Rocket Street」を装着した一台。オーナーの好みで黄色×黒ストロボラインのインターカラーにフルペイントされたその姿は、まさにキングことケニー・ロバーツのライディングで'78〜'80年の世界GPを3連覇した伝説のYZR500にソックリだ。他にもこの丸みを帯びた流麗なカウルを生かすデカールキットが用意されており、ペイントをしなくてもリーズナブルに雰囲気満点に仕上げることができるのだ。

# から飛び出たマシンが集結!

CG



↑元ネタは'15年1月号に掲載した本誌CG。



↑購入はこちらへ。



↑解説はこちらへ。



**G310SS**  
YM×A-TECH



**G310R**  
BMW



↑⇒ドライカーボンの「ブラックダイヤモンド」はエーテックの看板ブランド。サイドパネルも左右非対称デザインにした。吸気ダクトにはラムエア仕様も用意。ハンドル切れ角も確保している。



パッと見て「S1000RR?」と勘違いした人も多いのではないだろうか? ベース車は紛うことなきネイキッドのG310Rだ。'18年、ヤングマシンがCGで考案したフルカウル仕様を、外装パーツで有名なエーテックが製作するというコラボ企画を展開。モチーフはBMWが誇る最強スーパーバイクをコンセプトにデザインを重ねた。YMの案を元にエーテックが実車合わせで開発を進め、完成したプロトタイプがコチラとなる。ここまでフォルムが激変しながら、基本的に全てボルトオン。今後は公道版の開発を視野に入れたつ、もて耐参戦も目指す!

**コンプリートキット発売中  
3/24にレースデビュー!**

⇒ツインリンクもてぎと鈴鹿で開催されるネオスタンダードG310Rクラスに参戦するレーサーもスタンバイ。こちらはモトラッドつくばによる一台で、カウルの材質はFRPとなる。キットは16万2000円とリーズナブルな価格を実現した。



車両製作：MOTORRAD TSUKUBA  
☎029-822-3406

CG



**Z900RS CAFE**  
rizoma×K's-STYLE

↑↓メイン写真がミラノショーでのデモ車両。東京に展示するのは、黒く塗られたカフェカラーだ(写真左上)。



↑解説はこちらへ。



↑購入はこちらへ。

**ミラノショー展示モデルを国内でも再現**

2018年11月、rizoma (リゾマ) から、Z900RS/CAFE専用のアクセサリがイタリアのミラノショーで公開された。そのデモ車両を、リゾマを正規輸入する56デザインとリゾマの国内販売も行うケイズスタイルがコラボして日本で再現。内外出版社ブースで初公開する。



↑ハンドルは「RACE RETRO」で普通のバーハンドルとセパレートハンドルの中間的な位置としている。フェンダーレスキットは「FOX」を装着し、ウインカーの小型化ですっきりしたテールまわりに。



**MONKEY125** YM×YOSHIMURA

**完成版は東京で初公開! 排気はストレート管だ**

ヤングマシン主催の第46回マシン・オブ・ザ・イヤーの投票者に対して抽選で1名様にモニターとして提供されるモンキー125改。ヤングマシンとヨシムラがコラボして製作するマシンがついに完成し、ヨシムラブースで展示される運びとなった。ぜひ、実物をその目で確かめて欲しい!



↑解説はこちらへ。



CG



↑雨はもちろん釣りで冷えた手を温めるのにも最高のグリップヒーターも装備した。



↑エキパイやクランクケースを守るアンダーガードキットは林道走行の必需品だ。



↑荷物を満載にするとよりワイルドに。ロードにはリールをつけたまま縦に積載できる。



↑試作品のセンターアップマフラーもスリムさに貢献する。もちろん右サイド出しの通常マフラーも装着可能。



↑単気筒らしくスリム。伏せると体が隠れるようスクリーンは高さを持たせてある。ヘッドライトはステッカーだ。



# Scoop

## OFF ROAD

オフロードマシン

攻めの

林道ツーリング

SCOOPE

新型

AFRICA TWINの全貌

→表紙はイメージで、雑誌タイトルは未定のような。WEBヤングマシンでも最新動向をチェックだ！

あの

# No.1オフロード誌が5月に復活!?

元編集スタッフが再集結し復活に向けて活動を開始!?

この2月、30年以上の歴史を誇ったナンバーワンオフロード誌が休刊となり、林道ツーリングからオフロードレースまでを網羅するオフロード総合誌は不在となってしまった……。

しかし、バイクシーズン本格スタートを前に、ヤングマシン編集部はオフロード総合誌が復活するという情報をキャッチ！ ナンバーワンオフロード誌の元編集スタッフがすでに再集結し、トップライダーによる最新オフロードマシンテスト、ライテクハウツー、メンテナンス講座、林道ツーリング情報、全国各地のレースレポート、人気ライダーのコラム、さらには水着モデルによる読者プレゼントまで準備しているという。そんなオフロード情報マシンの総合オフロード誌は、連休明けの5月7日に990円での発売が濃厚。真相は書店で確かめて欲しい！



シークレット

?

表紙もある!

NSR250R専門誌

PROSPEC VOL. 2



↑フェイスブックもチェック

ネット専売! 表紙も選べる!? NSRマニア本の新刊・4月発売予定!

「世界一ディープなNSR専門誌」を自称し、初心者には理解不能なマニアックネタでNSR業界をガワガワさせた「プロスペック」は、オタク度をより濃くセッティングしたVol.2を4月に発売予定。Vol.1同様、書店には流通しないインターネット専売誌で、好評の「5種類から選べる表紙」もシークレットを加えて焼き付き寸前までパワーアップ。企画内容は公式Facebookでチラ見せ中だ!

バイク総合WEBサイト



young-machine.com



東京モーターサイクルショーで新発売!



ニッポン神名車伝  
→世界の頂点を極めた1969年のホンダCB750フォア以降、昭和の国産名車・全19台を徹底解説する一冊。旧車好き必見!

ヤングマシン5月号  
←なんとRRRというネーミングが使われるかも知れない次期CBR1000RRの情報や、最新2019年型を徹底取材!

↓購入はこちらへ。

↓購入はこちらへ。

